

12 がっひかりごう

令和6年12月1日 輝保育園

秋を一気に通り越し、朝晩は冷え込むようになってきました。でも子どもたちは元気いっぱい。事務室にも、子どもたちの楽しそうな声が聞こえてきて、こちらまで楽しくなります。今年も残り1か月です。気候の変化に体調を崩しやすいので、気を付けて過ごしましょう。来年も、子どもたちの成長を楽しみに見守っていきます。本年も、保護者の皆様よりたくさんのご理解とご協力を賜りましたこと、大変感謝しております。



(((年末・年はじめ)))

生活が不規則になりがちな年末年始。

健康に過ごし、年明けも元気に当園出来るようにしましょう！

- 規則正しい生活を送る。
- 夜更かしをしない。
- 1日3食、食事をする。
- 手洗いうがいをする。

遠出をする場合、無理のない日程で行動しましょう。

★ 冬至 ★

12月21日は冬至です。

1年でいちばん夜が長く、昼が短い日のことです。

かぼちゃを食べたり、ゆず湯に入ること、風邪をひきにくい体になれると言われています。



= 12月の行事予定 =

- 6日(金) 避難訓練
- 7日(土) 剣道披露会
- 20日(金) 誕生会・身体測定・
- 24日(火) クリスマス会
- 28日(土) 保育納め
- 30日(月) } 年末年始休み
- 1月3日(金) }
- 4日(土) 保育始め

《《《 お願い 》》》

1. クリアケースの中と、お便り帳を毎日確認してください。
2. お金などの貴重品は、必ず職員に手渡しをお願いします。
3. 持ち物や衣類には名前の記入をお願いします。名前が薄くなっていないか、もう一度確認して下さい。
4. 夜更かしをさせず、早寝・早起をし、しっかり朝食を摂りましょう。
5. 毎日入浴させ、清潔にしましょう。

☆☆ 家庭の取り組み ☆☆

～ 親離れ・子離れ(依存と自立)～

ちょっと前まで、親が手を貸さないと何もできない、幼い子どもだったはずなのに、いつの間にか、「こんなこともできるようになったんだ」、「こんなことを考えるようになったんだ」と驚かされたことはありませんか。

子どもの健やかな成長、自立を願わない親はいないはずですが。

今回は、「子どもの親離れ」、「親の子離れ」を考えていきましょう。

◎ 依存から自立へ

「自立」とは、他の助けや支配なしに自分一人の力だけで物事を行うこと、「依存」とは、他に頼って存在、生活することといわれます。

一見反対語のように捉えられますが、対立するものではなく、お互いが密接に関係しているものです。

心理的に自立している子どもは、親から厳しく育てられて自立したわけではなく、放任によって育てられたから自立したのでもありません。

成長する過程において、親への依存を体験し、親からの愛情をしっかりと確信できるからこそ、自立へのステップを歩むことができるといわれています。

子どもを自立した大人に育てていくために、依存することを十分、体験させ、親子の信頼関係を築くことが、とても大切です。

「教育力向上福岡県民運動 ホームページ」より抜粋

= ナース・レポート =

【 新たなインフルエンザワクチン スプレータイプ 効果や副反応 注意点は？ 鼻に直接吹き付ける「フルミスト」 】

今年はずでインフルエンザの流行期に入ったことが報道されました。今年から鼻に噴霧するタイプのインフルエンザ生ワクチン「フルミスト」が使用されています。これまでの注射型の不活化ワクチンとどちらを選べばよいでしょうか？

フルミスト	メリット	デメリット
経鼻生ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 痛くない ✓ 1シーズン1回接種で終了(2回受診しなくてよい) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2歳以上19歳未満と接種年齢が限られている ✓ 不活化ワクチンより高額(8,000~9,000円) ✓ 生ワクチンのため接種後に風邪症状が出る可能性
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 使い慣れている ✓ 妊婦や高齢者などでも安全に使用できる ✓ 副反応が軽度 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 痛い ✓ 生後6か月以上13歳未満は原則2回接種が必要(2回受診しないとけない)
従来の注射不活化ワクチン		

(近畿中央呼吸器センター 倉原 優医師作成)

インフルエンザの重症化を防ぐには、ワクチンが有効です。お子さんの健康状態をよく知っているかかりつけ医と相談して、どちらのワクチンを接種するのか選びましょう。

こ
ど
も
の
よ
う
す

たんぽぽぐみ
0才児



お天気の良い日、たんぽぽ園庭に戸外遊びに出かけました。「お外行こうか」の声掛けに大窓に集合するみんな。「帽子被っていこうね」の声掛けに帽子がある棚を指差し頭を触る子。帽子をそれぞれに渡すと自分なりに帽子を被ります。時折帽子が前後逆になっていますがそれも「自分でできた」という達成感を感じています。靴を履くと、滑り台を繰り返している子や広い園庭内をひたすら歩き回る子、動いている虫に興味を持つ子など色々な表情や行動が見られました。楽しい戸外遊びですが危ない事もたくさんあります。保育者一同で安全に努めると共に、遊びの中で体の使い方、遊具の使い方を学び、身体能力、危険察知力、回避能力を育めるような経験を重ね、また自然に触れることで感性を豊かに出来るように戸外遊びを展開していきます。

たんぽぽぐみ
1才児



2才半の子は、「友だちと一緒に」が楽しくなり、同じ遊びをしたり、やり取りしながら遊んだりすることも増えてきました。小さな滑り台の小窓から顔を出し、「いらっしやいませ～」とお店屋さんになりきる姿も。「何がありますか？」と聞くと、「ぶどう、りんご、みかん」など色々な果物の名前が出てきます。「ぶどう、ください」と言うと、奥から出して渡してくれます。食べて「おいしかったです」と言うと、「りんごもありますよ」と商売上手です。2才過ぎの子は、友だちが気になり始めましたが、まだ関わり方がわからず、トラブルになることも多い日々です。その都度、保育者が仲介しながら関わり方を知らせています。2才前の子は、自分で出来るが増え、自由に動くことも出来るようになり、好きな遊びを繰り返し楽しんでいます。

すみれぐみ
2才児



言葉で自分の思いを伝えることが出来るようになり、「先生、あのね・・・」と、最近あった出来事を、保育士に話す姿が増えてきました。一人が話し始めると、「僕も!」「私も!」と色々な話をしてくれます。話したいこと、伝えたい相手がいることで、子どもたちの思いが広がり、言葉のやり取りの楽しさを経験しています。遊びにおいても、子ども達同士で見立て遊び、ごっこ遊びを楽しむ姿が見えます。日常生活の中で経験したこと、聞いたことを遊びの中に取り入れ、遊びを展開しています。一人遊びから、友だちと関わりながら遊ぶ姿が見られるようになり、時にはぶつかり合うこともあります。保育士が仲立ちとなり、それぞれの思いを代弁することで、相手の思いに気づき、一緒に遊ぶ楽しさをより感じて欲しいと思っています。

ちゅうりっぷぐみ
3才児



子ども達の間で「おおかみさん今何時?」の遊びが小さな流行を見せています。以前は追いかけられることを怖がり参加を拒んでいましたが、今では自ら遊びに取り入れ、楽しさを共有するようになった姿に成長を感じます。そこで、次は「しっぽ取りゲーム」を取り入れました。おしりに「しっぽ」を付け鬼に取られないように逃げる、という内容です。鬼役は人気が高いのでみんなが経験できるように交代制にしています。追いかける側になると表情が一変、走り疲れていた子もみるみる力が沸き上がってきます。大きく腕を振りスピードを上げ、普段は見せない勇ましい表情です。しっぽを取るまで決して諦めず、根気強さを発揮しています。逃げる方も必死の表情です。子ども達の「本気」が溢れ、息があがっても「まだいける!」と逞しさを見せてくれています。

ばらぐみ
4才児



体を動かした多人数で遊ぶ姿も増えてきました。雲梯やジャングルジムはひとりごと「したい」と遊び始めると他の子たちも続々と加わってきます。始めは同じ位置でぶら下がるだけでしたが、進めるようになった子を見て「すごいね」「よかったね」と自然と優しい言葉が聞かれ「自分も」と挑戦しています。また、年長の鬼ごっこに加わる姿もみられるようになってきました。人数も増えて楽しくなると、ルールを守らなかったり力の加減が出来ずに押したりトラブルも増えてきます。みんなが楽しく遊ぶために話し合い、ルールを守る大切さについて考えていけるよう関わっていきます。朝夕は寒くなり、昼との寒暖差が大きくなってきました。日中汗ばむこともあり衣服の調整や風邪の予防について話をしながら進めていきます。

ひまわりぐみ
5才児



11月下旬の朝夕は冷え込む中、「今日は寒いよね」と言いながら戸外へ出て、ドッジボールや鬼ごっこなどの遊びを楽しみました。初めは寒さを感じていても、体を目いっぱい動かして遊ぶのですぐに体が温まり、上着を脱いで薄着で遊んでいます。鬼ごっこのルールを自分たちで決めて遊ぶ中で、ルールへの理解が異なったり、自分が有利なように変えたりしてトラブルが起きます。それぞれに思いがありますが、一方的に言ってしまうように相手に伝わりません。そんな時は保育者が仲介しながら見守ります。話し合いを繰り返す中で、自分の思いを伝え、相手の気持ちを聞いて折り合いをつけ、自分たちで解決できるようになってほしいと願っています。12月からは保育園最後の生活発表会に向けて、子ども達の気持ちを高めながら心をつなげて取り組んでいきます。